

プレスリリース

2023年1月13日
国境なき医師団 (MSF)

カメルーン：軍事法廷で MSF スタッフ全員が無罪判決

国境なき医師団 (MSF) は、カメルーンで分離独立派に加担した容疑で裁判を受けていたスタッフ 5 人に無罪判決が出たことに安堵している。一方で、取り調べを受けたスタッフのうち、4 人は 1 年近く拘束され、本人やその家族が計り知れない苦痛と苦悩を強いられたことは容認できないと批判する。

これまでの経緯

2021 年 12 月 26 日、同国南西州のヌグティで、MSF の看護師と救急車の運転手が、銃で撃たれた患者を病院に搬送中に逮捕された。2 人は分離派との共謀容疑で、5 カ月間刑務所に入れられた後、2022 年 5 月に仮釈放された。

2022 年 1 月には、地域保健担当者とアシスタント・プロジェクト・コーディネーターの 2 人が同じ容疑で身柄を拘束され、さらにもう 1 人は本人不在のまま告発された。

2022 年 11 月 1 日、ブエア軍事裁判所はスタッフの一人に対し、「証拠不十分」との判決を下した。このスタッフは、それまで 10 カ月間刑務所で過ごしており、判決後すぐに釈放された。

そして 12 月 29 日、残りのスタッフも全員が無罪となり、最後の一人は翌日釈放された。欠席裁判を受けていたプロジェクト・コーディネーターについても無罪の判決が下された。

根拠のない容疑

中部アフリカで MSF のオペレーション・マネジャーを務めるシルバン・グルクスは、「私たちは、5 人のスタッフ、ひいては MSF という団体に落ち度はなかったとする判決に大いに満足しています」と話す。

「MSF は武装集団や、暴力を伴う危機や紛争の当事者との共謀は断固として拒否し、医療倫理にのっとって行動しています。特に当局は私たちがどのように医療援助を行っているか正確に把握しており、このような容疑には当初から根拠がありませんでした。医療従事者が目の前の患者を治療するという仕事をただで非難されるというのは、あらゆる医療倫理や人道主義に反するといしか言いようがありません」

医療活動の再開は困難

MSF はスタッフ 4 人が拘束されたことを受けて、2022 年 5 月にカメルーン南西州での活動を停止するという苦渋の決断を下した。現地で必要とされている救命診療の再開を切望しているが、患者やスタッフの安心・安全が守られた状態で医療活動を行えることが大前提になる。さらに、医療倫理にのっとり、独立性、公平性、中立性という人道的原則に従って必要とするすべての患者に医療を提供できなければならない。

「政府との対話の道を開こうと何度も試みてきましたが、政府からの反応はありません。チームと患者の安全を保証できるような合意は難しい状況で、救命医療活動再開のめどは立ちません。しかし、南西州で医療・人道援助活動を再開する可能性を探るためカメルーン当局と引き続き協議する必要があります」とグルクスは指摘する。

2020 年 12 月、MSF が地元の武装集団を支援しているとする一連の疑惑を受け、当局は北西州での MSF の医療活動を停止したが、MSF は公の場でも当局との会合でも一貫してこれを否定。活動は停止したままだが、北西州でも MSF は住民への医療援助再開に向けた対話を行っていく。

MSF は 1984 年からカメルーンでの活動を開始し、南西州では 2018 年から活動している。2019 年以降、南西州の医療チームは 40 万件以上の診療を実施。支援している医療施設での診療は 6 万 8000 件以上に上り、2021 年には、2284 人の分娩を介助した。活動が停止されるまで南西州で唯一の救急搬送体制であった MSF の救急車チームは、2021 年に 8000 人以上の急患を救急医療のため搬送した。


以上

本件に関するお問い合わせ先：

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 広報担当：舘 俊平、山田瑞穂

携帯：080-2344-0684

E-mail: press@tokyo.msf.org <https://www.msf.or.jp>

 メディア向けツイッターアカウント：@MSFJ_Press